

## 2019 年度事業計画

### 1. 会員

会員を増やすための努力をするとともに、会員数が減少しても運営できる財務体質を目指す。

### 2. 会議

2.1 2019 年度定時社員総会 (2019 年 6 月, 都内にて開催)

2.2 理事会 (年 4 回以上開催)

2.3 役員会 (年 6 回以上開催)

2.4 評議員会 (年 1 回開催)

### 3. 事業活動

#### 3.1 機関誌発行

4 冊の機関誌を編集刊行する。採録論文の一部は、機関誌のサイバー増大の形で電子的に出版する。現在の解説論文や特集号の充実を維持すると同時に、本誌部分にはトピックス記事などを優先して掲載し、より広く会員に読まれることを目指す。

会員が投稿しやすい機関誌を目指し、査読から掲載までのさらなる迅速化を図る。

特集号、推薦論文、大会同時投稿論文などを通して、研究会・大会との連携を深め、掲載論文の充実を図る。

二重投稿を明確化した投稿規定の改訂 (2018 年 6 月) により、二重投稿を未然に防  
止し、合わせて科学者としての倫理の周知に努める。

#### 3.2 大会

第 36 回大会を以下の要領で開催する。

日 時:	2019 年 8 月 27 日 (火)~29 日 (木) 併設イベントは 8 月 26 日 (月) に開催予定
会 場:	芝浦工業大学芝浦キャンパス
大会委員長:	松浦佐江子 (芝浦工業大学)
運営委員長:	野田夏子 (芝浦工業大学)
運営副委員長:	福田浩章 (芝浦工業大学)
プログラム委員長:	伊藤恵 (公立はこだて未来大学)
プログラム副委員長:	住井英二郎 (東北大学) 神谷年洋 (島根大学)
登壇発表申込締切:	2019 年 7 月 4 日 (木)
講演論文原稿締切:	2019 年 8 月 5 日 (月)
デモ・ポスター発表申込締切:	2019 年 8 月 6 日 (火)

#### 3.3 講習会

学会会員サービスとしてチュートリアル・大学基礎講座を実施し、また、大会併設企画、および大会企画の立案・実施に協力する。2018 年度の実績も踏まえ、今後の実施の方向性について検討するとともに編集委員会との連携なども模索する。

#### 3.4 研究会

次の 9 研究会が活動する。各研究会の活動予定は下記の通りである。

(1) 「プログラミング論」研究会（主査：南出靖彦）

- 運営委員会の構成の変更

任期満了により，以下の運営委員（敬称略）の交替を予定している．

退任（2名）：馬谷誠二（京都大学）浜名誠（群馬大学）

新任（2名）：笹田耕一（クックパッド）末永幸平（京都大学）

2019年度の運営委員は以下の10名である（五十音順）．

青戸等人（新潟大学）鶴川始陽（高知工科大学）笹田耕一（クックパッド）末永幸平（京都大学）中澤巧爾（名古屋大学）西崎真也（東京工業大学）番原睦則（名古屋大学）松崎公紀（高知工科大学）南出靖彦（主査・東京工業大学）森畑明昌（東京大学）

- コンピュータソフトウェア誌への PPL 2019 推薦論文の提案

PPL 2019 採録論文の一部の著者へ投稿を推奨予定

- 第17回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール（PPL Summer School 2019）の主催

日本ソフトウェア科学会第36回大会 併設，2019年8月26日予定

- 第36回大会 PPL セッションの実施

大会コーディネータ：浜名誠（群馬大学）

- 第22回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ（PPL 2020）主催

日程：2020年3月中，2泊3日で開催

場所：検討中

プログラム共同委員長：平石拓（京都大学）森畑明昌（東京大学）

組織委員長：佐藤亮介（九州大学）

- 2019年度運営体制

- a) 主査

南出靖彦（東京工業大学）

- b) リエゾン企画委員

森畑明昌（東京大学）

- c) 運営委員

青戸等人（新潟大学）鶴川始陽（高知工科大学）笹田耕一（クックパッド）末永幸平（京都大学）中澤巧爾（名古屋大学）西崎真也（東京工業大学）番原睦則（名古屋大学）松崎公紀（高知工科大学）南出靖彦（主査・東京工業大学）森畑明昌（東京大学）

- d) 専門委員: なし

(2) 「マルチエージェントシステムと協調計算」研究会（主査：清雄一）

- 合同エージェントワークショップ&シンポジウム（JAWS2019）共催
- 全国大会にて MACC セッションを開催
- MACC 研究会 1 回開催
- クラウドソーシング研究会に協賛
- 2019 年度運営体制
  - a) 主査  
大冢忠親（名古屋工業大学）
  - b) リエゾン企画委員  
東藤大樹（九州大学）
  - c) 運営委員  
櫻井祐子（産業技術総合研究所） 清雄一（電気通信大学）

(3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会（主査：伊藤貴之）

- 第 27 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ（WISS 2019）  
主催: 日本ソフトウェア科学会 インタラクティブシステムとソフトウェア研究会  
日時: 2019 年 9 月 25 日 (水)～27 日 (金)（予定）  
場所: ロイヤルホテル長野（〒 381-1215 長野県長野市松代町西寺尾 1372-1）  
プログラム委員長 伊藤貴之（お茶大）  
実行委員長 西田健志（神戸大） 副実行委員長 五十嵐悠紀（明治大）  
収入予定 8,000,000 円、支出予定 8,000,000 円
- コンピュータソフトウェア誌への WISS 2019 推薦論文の提案  
WISS 2019 採録論文の一部の著者へ投稿を推奨予定
- 情報処理学会インタラクシオン 2020 に協賛予定
- エンタテインメントコンピューティング 2019 に協賛予定
- 2019 年度運営体制
  - a) 主査  
伊藤貴之（お茶大）
  - b) リエゾン企画委員  
伊藤貴之（お茶大） ※ 2019 年度に限り主査とリエゾン企画委員兼務
  - c) 研究会運営委員  
綾塚祐二（クレスコ） 五十嵐悠紀（明治大） 伊藤貴之（お茶大） 丸山一貴（明星大） 宮下芳明（明治大） 脇田建（東工大）

(4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会（主査：門田暁人）

- ワークショップ 1 回開催  
第 26 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE2019  
日程：2019 年 11 月 28-30 日  
場所：岐阜県下呂市（予定）  
プログラム委員長：森崎修司（名古屋大学） 大平雅雄（和歌山大学）
- コンピュータソフトウェア誌の「ソフトウェア工学の基礎」特集号（予定）
- 大会にて研究会セッションを開催（2019 年 8 月）
- 協賛予定の会議  
機械工学研究会 シンポジウム  
ソフトウェアテストシンポジウム（JaSST）
- 2019 年度運営体制
  - a) 主査  
門田暁人（岡山大学）
  - b) リエゾン企画委員  
吉岡信和（国立情報学研究所）

(5) 「インターネットテクノロジー」研究会（主査：藤本衡）

- 活動計画：
  - ・ WIT2019（第 19 回インターネットテクノロジーワークショップ）の主催  
- 2019 年 10 月（開催日未定）
- 予算：
  - ・ 収入 WIT2019 参加費収入（参加者見込み：25 名程度）350,000 円
  - ・ 支出 WIT2019 運営費 350,000 円
- 2019 年度運営体制
  - a) 主査  
藤本衡（東京電機大学）
  - b) リエゾン企画委員  
廣海緑里（インテック）
  - c) 運営委員  
河合栄治（情報通信研究機構）

(6) 「ディペンダブルシステム」研究会（主査：前田俊行）

- 概要

2018 年度までより引き続き、ディペンダブルシステムの理論や実装に関する先導研究を推進するための討論・研究成果発表の場を設けることを目的にワークショップを開催する。

- 内容

第 17 回ディペンダブルシステムワークショップ（DSW2019）の開催

日時：2019 年 12 月頃

場所：未定

幹事：大場勝（日産自動車）石井大輔（福井大学）阿部洋丈（筑波大学）松野裕（日本大学）

- 予算

収入：600,000 円

支出：600,000 円

- 2019 年度運営体制

- a) 主査

- 前田俊行（千葉工業大学）

- b) リエゾン企画委員

- 松野裕（日本大学）

- c) 運営委員

- 阿部洋丈（筑波大学）石井大輔（福井大学）大場勝（日産自動車）松野裕（日本大学）

(7) 「ネットワークが創発する知能」研究会（主査：栗原聡）

- JWEIN-Summer ワークショップ 日程：2019 年 8 月（上旬予定）

場所：選定中

プログラム委員長：栗原聡（慶應義塾大学）

- JWEIN-DOCMAS 合同合宿

日程：12 月上旬予定

場所：未定

プログラム委員長：未定

- 2019 年度運営体制

a) 主査

栗原聡（慶應義塾大学）

b) リエゾン企画委員

栗原聡（慶應義塾大学）

c) 運営委員

栗原聡（慶應義塾大学）風間一洋（和歌山大学）内藤祐介（人工生命研究所）中島秀之（札幌市立大学）廣津登志夫（法政大学）松尾豊（東京大学）

d) 専門委員

秋山英三（筑波大学）和泉潔（東京大学）今井哲朗（東京情報大学）岩田学（筑波大学）白井翔平（Sansan-DSOC）岡田勇（創価大学）小川祐樹（立命館大学）海蔵寺大成（国際基督教大学）川村秀憲（北海道大学）小島一浩（産業技術総合研究所（AIST））五斗進（京都大学）菅原俊治（早稲田大学）相馬亘（日本大学）斉藤和巳（神奈川大学）佐藤進也（日本工業大学）榊剛史（ホットリンク）澤井秀文（情報通信研究機構（NICT））諏訪博彦（奈良先端科学技術大学院大学）苑田義明（三菱重工業）高野雅典（株式会社サイバーエージェント）谷本潤（九州大学）鳥海不二夫（東京大学）館健太郎（駒沢大学）辻竜平（近畿大学）中村真理（産業技術総合研究所）生天目章（AFOSR）西成活裕（東京大学）福田健介（国立情報学研究所（NII））藤原義久（兵庫県立大学）前野義晴（日本電気株式会社）松林達史（NTT サービスエボリューション研究所）三宅美博（東京工業大学）水野誠（明治大学）村田剛志（東京工業大学）守真太郎（北里大学）安田雪（関西大学）柳井孝介（日立製作所）山本仁志（立正大学）我妻広明（九州工業大学）

※ EIN ではプログラム委員会と呼称しています

(8) 「実践的 IT 教育」研究会（主査：田原康之）

- 運営委員会の構成変更

2019 年 4 月より主査は橋本正樹氏（情報セキュリティ大学院大学）に、またリエゾン企画委員は中里翔太氏（木更津工業高等専門学校）に交代予定である。

- 第 36 回大会研究会での企画

今年度に引き続き、第 36 回大会でも企画セッションを実施する予定である。

- コンピュータソフトウェア誌 rePiT 特集号

第 4 回 rePiT 特集号を組む予定である。

- 第 6 回実践的 IT 教育研究シンポジウムの開催

2020 年 1 月 22 日に、第 6 回実践的 IT 教育研究シンポジウムを開催する予定である。

- 2019 年度収支計画

収入：200,000 円

支出：200,000 円

収支：0 円

- 2019 年度運営体制

- a) 主査

- 橋本正樹（情報セキュリティ大学院大学）[新任]

- b) リエゾン企画委員

- 中里翔太（木更津工業高等専門学校）[新任]

- c) 運営委員

- 井垣宏（大阪工業大学）伊藤恵（公立はこだて未来大学）大久保隆夫（情報セキュリティ大学院大学）大場みち子（公立はこだて未来大学）糸野文洋（日本工業大学）田原康之（電気通信大学）藤原賢二（豊田工業高等専門学校）本田澄（早稲田大学）森本千佳子（東京工科大学）吉岡信和（国立情報学研究所）吉田則裕（名古屋大学）

(9) 「機械学習工学」研究会（主査：石川冬樹）

- イベント予定

- 2019 年 5/17 Open QA4AI Conference  
都内（国立情報学研究所）（協賛）
- 5/23-24 iMLSE Symposium 2019  
カナダ・モントリオール大学（共催）
- 6/4-7 人工知能学会全国大会企画セッション  
「機械学習における解釈性・公平性・安全性への工学的取り組み」（活動報告発表）
- 7/6-7 第 2 回機械学習工学ワークショップ（MLSE2019）  
神奈川（COLONY 箱根）
- 9/15-16 研究戦略ワークショップ  
静岡（熱海 湯宿一番地）
- 10/18 MLSE シンポジウム 2019  
都内（一橋講堂）

- 予算案

MLSE 2019 収入 130 万 支出 130 万

MLSE シンポジウム 2019 収入 200 万 支出 200 万

繰越金 22 万 は講演謝金に充てる

- 2019 年度運営体制

- a) 主査

石川冬樹（国立情報学研究所）

- b) リエゾン企画委員

土肥拓生（ライフマティクス）

- c) 運営委員

今井健男（Idein）太田満久（ブレインパッド）鎌田篤慎（ヤフー）土肥拓生（ライフマティクス）宮崎崇史（ヤフー）丸山宏（Preferred Networks）守田憲司（Preferred Networks）吉岡信和（国立情報学研究所）吉崎亮介（キカガク）



### 3.5 広報

本学会 Web ページ，会員メーリングリスト，Twitter 等の電子的な広報手段を整備・活用し，有益な情報を効果的かつ適時に会員に提供する。

### 3.6 賞の選考

基礎研究賞，研究論文賞，ソフトウェア論文賞，高橋奨励賞を選考する。

## 2019 年度予算

2019 年度の単年度予算としては収入 36,740,000 円、支出 36,840,000 円を計上している。

### 1. 予算方針

近年の決算においては、本学会の財務収支は、法人化と支出削減努力によって、収入が支出を上回る状況で推移している。しかし、2017 年 12 月の会員数（正会員：771 名、学生会員：47 名、準会員：18 名、団体会員：5 名、賛助会員：8 口）と 2019 年 1 月の会員数（正会員：754 名、学生会員：37 名、準会員：19 名、団体会員：6 名、賛助会員：8 口）とを比較すると会員数は減少傾向にあり、今後の財務状況を注視していく必要があるとともに、正会員、学生会員ともに新規会員の方策を検討する必要がある。

### 2. 各費目の計上理由

入会金・会費収入予算は、前述の 2019 年 1 月の会員数（正会員：754 名、学生会員：37 名、準会員：19 名、団体会員：6 名、賛助会員：8 口）を基に見積もっている。研究活動費に関しては、研究論文賞 2 件、ソフトウェア論文賞 2 件、高橋奨励賞 2 件分の予算、各表彰の際に手渡すトロフィー等の表彰アイテムの予算を計上している。大会については、昨年度の決算から収入、支出を見積もり、大会単体では黒字となる予算としている。機関誌購入費については、一昨年度から部数を減らして費用削減を図っており、サイバーページのボリュームも含めて、昨年度と同程度に見積もっている。機関誌業務費については、機関誌に付随する発送費・発送手数料、著者負担金請求手数料等を計上している。講習会については、FTD（参加費無料）を開催する予算を計上せず、1 回のみで開催予定として見積もっている。委託手数料については、ホームページ管理業者および会計管理のための税理士への委託料を計上している。また、消費税および住民税の概算額を租税公課に計上している。事務局費については、案内通知、督促状等、会員管理・会計等の年間業務委託費を計上し、事務局変動費として、機関誌、資料の保管料やその他事務局に委託する費用を計上している。基礎研究賞事業については、昨年度と同じ収支を予定している。研究会事業については、各研究会の参加費等による収入と、研究会実施のための支出を計上している。会員への還元や研究会活動の活性化を目的として、これまでの繰越金を支出することを予定しており、全体としては支出超過の計画となっている。